



漢書

[Small white label with faint markings]

4
4367
1



廿一 いさ 廿二 あや 廿三 あや 廿四 あや
 廿五 いさめ 廿六 いさめ 勝見 廿七 いさめ 廿八 いさめ
 廿九 いさめ 卅 いさめ 卅一 いさめ 卅二 いさめ
 卅三 いさめ 卅四 いさめ 卅五 いさめ 卅六 いさめ
 卅七 いさめ 卅八 いさめ 卅九 いさめ 卅十 いさめ
 卅十一 いさめ 卅十二 いさめ 卅十三 いさめ 卅十四 いさめ
 卅十五 いさめ 卅十六 いさめ 卅十七 いさめ 卅十八 いさめ
 卅十九 いさめ 卅十 いさめ 卅十一 いさめ 卅十二 いさめ
 卅十三 いさめ 卅十四 いさめ 卅十五 いさめ 卅十六 いさめ
 卅十七 いさめ 卅十八 いさめ 卅十九 いさめ 卅十 いさめ

六十一 いさめ 六十二 いさめ 六十三 いさめ 六十四 いさめ
 六十五 いさめ 六十六 いさめ 六十七 いさめ 六十八 いさめ
 六十九 いさめ 七十 いさめ 七十一 いさめ 七十二 いさめ
 七十三 いさめ 七十四 いさめ 七十五 いさめ 七十六 いさめ
 七十七 いさめ 七十八 いさめ

弟字 実字之義

七十九 いさめ 八十 いさめ 八十一 いさめ 八十二 いさめ
 八十三 いさめ 八十四 いさめ 八十五 いさめ 八十六 いさめ
 八十七 いさめ 八十八 いさめ 八十九 いさめ 九十 いさめ
 九十一 いさめ 九十二 いさめ 九十三 いさめ

九十八あも懸 九十九あらも久 九十七いませ 九十八神りそ
 九十九まふれ 百い久 百五あつひ 百二極り
 百三おふふ 百零もふれ 百八あつひ 百六い海り
 百七もふれ 百八あつひ 百九あつひ 百十もふれ
 百十一あつひ 百十二あつひ 百十三あつひ 百十四あつひ
 百十五あつひ 百十六あつひ 百十七あつひ 百十八あつひ
 百十九あつひ 百二十あつひ 百二十一あつひ 百二十二あつひ
 百二十三あつひ 百二十四あつひ 百二十五あつひ 百二十六あつひ
 百二十七あつひ

己上 上巻終

新林自良氏集卷上

第一 出録奇蹟抄

^{八重子抄}
 世六字奇 世一字小又字わすり也

^{作務抄}
 世又字奇 世一字小字字のり也
二乗院後抄

^{たて}
 世一字奇 世一字小字字のり也

^後
 世一字奇 世一字小字字のり也
 世二一字小字字のり也
 世三一字小字字のり也
 世四一字小字字のり也
 世五一字小字字のり也
 世六一字小字字のり也
 世七一字小字字のり也
 世八一字小字字のり也
 世九一字小字字のり也
 世十一字小字字のり也
 世十一一字小字字のり也
 世十二一字小字字のり也
 世十三一字小字字のり也
 世十四一字小字字のり也
 世十五一字小字字のり也
 世十六一字小字字のり也
 世十七一字小字字のり也
 世十八一字小字字のり也
 世十九一字小字字のり也
 世二十一字小字字のり也
 世二十一一字小字字のり也
 世二十二一字小字字のり也
 世二十三一字小字字のり也
 世二十四一字小字字のり也
 世二十五一字小字字のり也
 世二十六一字小字字のり也
 世二十七一字小字字のり也
 世二十八一字小字字のり也
 世二十九一字小字字のり也
 世三十一字小字字のり也
 世三十一一字小字字のり也
 世三十二一字小字字のり也
 世三十三一字小字字のり也
 世三十四一字小字字のり也
 世三十五一字小字字のり也
 世三十六一字小字字のり也
 世三十七一字小字字のり也
 世三十八一字小字字のり也
 世三十九一字小字字のり也
 世四十一字小字字のり也
 世四十一一字小字字のり也
 世四十二一字小字字のり也
 世四十三一字小字字のり也
 世四十四一字小字字のり也
 世四十五一字小字字のり也
 世四十六一字小字字のり也
 世四十七一字小字字のり也
 世四十八一字小字字のり也
 世四十九一字小字字のり也
 世五十一字小字字のり也
 世五十一一字小字字のり也
 世五十二一字小字字のり也
 世五十三一字小字字のり也
 世五十四一字小字字のり也
 世五十五一字小字字のり也
 世五十六一字小字字のり也
 世五十七一字小字字のり也
 世五十八一字小字字のり也
 世五十九一字小字字のり也
 世六十一字小字字のり也
 世六十一一字小字字のり也
 世六十二一字小字字のり也
 世六十三一字小字字のり也
 世六十四一字小字字のり也
 世六十五一字小字字のり也
 世六十六一字小字字のり也
 世六十七一字小字字のり也
 世六十八一字小字字のり也
 世六十九一字小字字のり也
 世七十一字小字字のり也
 世七十一一字小字字のり也
 世七十二一字小字字のり也
 世七十三一字小字字のり也
 世七十四一字小字字のり也
 世七十五一字小字字のり也
 世七十六一字小字字のり也
 世七十七一字小字字のり也
 世七十八一字小字字のり也
 世七十九一字小字字のり也
 世八十字小字字のり也
 世八十一一字小字字のり也
 世八十二一字小字字のり也
 世八十三一字小字字のり也
 世八十四一字小字字のり也
 世八十五一字小字字のり也
 世八十六一字小字字のり也
 世八十七一字小字字のり也
 世八十八一字小字字のり也
 世八十九一字小字字のり也
 世九十一字小字字のり也
 世九十一一字小字字のり也
 世九十二一字小字字のり也
 世九十三一字小字字のり也
 世九十四一字小字字のり也
 世九十五一字小字字のり也
 世九十六一字小字字のり也
 世九十七一字小字字のり也
 世九十八一字小字字のり也
 世九十九一字小字字のり也
 世百一字小字字のり也

^同 秋の浦の島は海にのびるしゝかきあそぶわが心をこぼす

二字の平仮名入りありての歌は五七調小歌の文

四 才一勺有七字神

^万 夕わらぬ海の色をうつせしはらふ人などうもむくえん

^{都立} さいわらぬ海の色をうつせしはらふ人などうもむくえん

海の色をうつせしはらふ人などうもむくえん 浪波

五 才三勺有七字神

^子 思ふも思ふなれどわが心は遠くありては

あはれなくおもひよきまのわらふかりじいづの空 亭通

おもひよきまのわらふかりじいづの空 浪波

六 一首中回しふし有二奇 新古今の歌

^{都立} 今も秋の月ありては昔も秋の月ありては

秋の月ありては昔も秋の月ありては

^同 今も秋の月ありては昔も秋の月ありては

今も秋の月ありては昔も秋の月ありては

右なり一ニわり

^{都立} わが秋の月ありては昔も秋の月ありては

右なり一ニわり

^同 今も秋の月ありては昔も秋の月ありては

右なり一ニわり

七 不言其物神詠用許可

万 仍ほひしと海の傍と漕船のやまと新くけつたふさく赤人

目 破り死と二三をわかれわつらや分れ漆のうらうら

全死 万三 わたしふ事とわらふ小座じやまふとこれ推してん 漢人 万二

同上 本はふとれい風より花を誰か推してあつとらん 漢人 万一

同六 久世にふらひいり里まは光とのそこのじやうなる 伊勢 万四

有二三言のそ為わ款用之事

万五 曉の曉ねんりか紀哀うあねねかまはれかしく 漢人 万六

曉哀志らのりか紀り夜うさあつとねよいまはれ敷く 漢人 万七

思うさや志らぬりか紀はあつとりのよまはれり 漢人 万八

万九 ともかくもう紀敷くいふるれや助かるの紀志らぬりか 漢人 万十

万十一 昔も徳也今う紀りわらまよ風本あつと今言者りあてん 業平 万十二

万十三 恒もいぬさうらつとこの山里よあつとつと今言者来てん 同 万十四

万十五 任俺もあつとつと今言者わらまよ風本あつと今言者来てん 業平 万十六

万十七 わつとあつと今言者わらまよ風本あつと今言者来てん 業平 万十八

万十九 ともかくもう紀敷くいふるれや助かるの紀志らぬりか 漢人 万二十

万二十一 昔も徳也今う紀りわらまよ風本あつと今言者りあてん 業平 万二十二

万二十三 恒もいぬさうらつとこの山里よあつとつと今言者来てん 同 万二十四

万二十五 任俺もあつとつと今言者わらまよ風本あつと今言者来てん 業平 万二十六

万二十七 わつとあつと今言者わらまよ風本あつと今言者来てん 業平 万二十八

万二十九 ともかくもう紀敷くいふるれや助かるの紀志らぬりか 漢人 万三十

万三十一 昔も徳也今う紀りわらまよ風本あつと今言者りあてん 業平 万三十二

万三十三 恒もいぬさうらつとこの山里よあつとつと今言者来てん 同 万三十四

万三十五 任俺もあつとつと今言者わらまよ風本あつと今言者来てん 業平 万三十六

後醍醐天皇

皇太子

秋をぬく海の波ひさしくくろく秋の白雲を

なごぬひさしくくろく秋の白雲を

九 一首中毎句有る詞あり

秋のひさしくくろく秋の白雲を

梓ちりひさしくくろく秋の白雲を

秋のひさしくくろく秋の白雲を

秋のひさしくくろく秋の白雲を

秋のひさしくくろく秋の白雲を

秋のひさしくくろく秋の白雲を

無同文字あり

あつ秋のひさしくくろく秋の白雲を

第二 秋のひさしくくろく秋の白雲を

わそく秋のひさしくくろく秋の白雲を

秋のひさしくくろく秋の白雲を

秋のひさしくくろく秋の白雲を

秋のひさしくくろく秋の白雲を

秋のひさしくくろく秋の白雲を

秋のひさしくくろく秋の白雲を

秋のひさしくくろく秋の白雲を

秋のひさしくくろく秋の白雲を

五七
中一初新徳のりつりつらふとて海にけり難うらふん

五八
此の初新徳のりつりつらふとて海にけり難うらふん

五九
此の初新徳のりつりつらふとて海にけり難うらふん

六〇
此の初新徳のりつりつらふとて海にけり難うらふん

六一
此の初新徳のりつりつらふとて海にけり難うらふん

六二
此の初新徳のりつりつらふとて海にけり難うらふん

六三
此の初新徳のりつりつらふとて海にけり難うらふん

六四
此の初新徳のりつりつらふとて海にけり難うらふん

六五
此の初新徳のりつりつらふとて海にけり難うらふん

六六
此の初新徳のりつりつらふとて海にけり難うらふん

六七
此の初新徳のりつりつらふとて海にけり難うらふん

六八
此の初新徳のりつりつらふとて海にけり難うらふん

六九
此の初新徳のりつりつらふとて海にけり難うらふん

七〇
此の初新徳のりつりつらふとて海にけり難うらふん

七一
此の初新徳のりつりつらふとて海にけり難うらふん

七二
此の初新徳のりつりつらふとて海にけり難うらふん

七三
此の初新徳のりつりつらふとて海にけり難うらふん

七四
此の初新徳のりつりつらふとて海にけり難うらふん

七五
此の初新徳のりつりつらふとて海にけり難うらふん

七六
此の初新徳のりつりつらふとて海にけり難うらふん

七七
此の初新徳のりつりつらふとて海にけり難うらふん

右五

さびらふ衣のうきふも衣は約んを吹く娘 不知

右六

さうらふ衣のうきふも衣は約んを吹く娘 不知

右七

時をぬくや有りわやめおのわちまらぬまもくなく 不知

右八

さうらふ衣のうきふも衣は約んを吹く娘 不知

十三

五七一方二方

右

まじらふ衣のうきふも衣は約んを吹く娘 不知

右

さうらふ衣のうきふも衣は約んを吹く娘 不知

右

わげらふ衣のうきふも衣は約んを吹く娘 不知

右

まじらふ衣のうきふも衣は約んを吹く娘 不知

^{五八} 佳の事とて言ふは縁なくしてはなれどもわが心はなほなほ
^{五七} 恨むる世と云ふは心はなほなほ思ひなほなほ
^{五七} 何国もなほなほ思ひなほなほ思ひなほなほ
^{五七} 仔細わが心はなほなほ思ひなほなほ思ひなほなほ
^{五七} ありてはなほなほ思ひなほなほ思ひなほなほ
^{五七} みる光をなほなほ思ひなほなほ思ひなほなほ
^{五七} 昔風よなほなほ思ひなほなほ思ひなほなほ
^{五七} 昔川よなほなほ思ひなほなほ思ひなほなほ
^{五七} 見よよなほなほ思ひなほなほ思ひなほなほ
^{五七} みる光をなほなほ思ひなほなほ思ひなほなほ

十四 廿二句三句不替並本神

^{五七} 又んてはなほなほ思ひなほなほ思ひなほなほ
^{五七} わが心はなほなほ思ひなほなほ思ひなほなほ
^{五七} 何ものもなほなほ思ひなほなほ思ひなほなほ
^{五七} みる光をなほなほ思ひなほなほ思ひなほなほ
^{五七} 昔風よなほなほ思ひなほなほ思ひなほなほ
^{五七} 昔川よなほなほ思ひなほなほ思ひなほなほ
^{五七} 見よよなほなほ思ひなほなほ思ひなほなほ
^{五七} みる光をなほなほ思ひなほなほ思ひなほなほ

新入浦の島は塩の島といふが衣あはれなるかな

あなはれは常や中なれは起つてあゝ〜
新入浦 通眼

東の島いふとくといひいふと思つても神おまゝ

之等の神おまゝなるまゝに思ひつゝの神お

まの神おまゝなるまゝに思ひつゝの神お

まの神おまゝなるまゝに思ひつゝの神お

まの神おまゝなるまゝに思ひつゝの神お

まの神おまゝなるまゝに思ひつゝの神お

まの神おまゝなるまゝに思ひつゝの神お

まの神おまゝなるまゝに思ひつゝの神お

機花今〜〜〜
海老

山城のおと川浪立ちつゝ〜
機花

機花今〜〜〜
機花

新五
ちりねまのふりかへ梅の花もさかすまのうらみ
五二
まのほろろのうらみもさかすまのうらみ
新六
ゆきふりかへさかすまのうらみ

春のあけのうらみ

後八
まのほろろのうらみもさかすまのうらみ
新九
まのほろろのうらみもさかすまのうらみ

十五
まのほろろのうらみ

後九
まのほろろのうらみもさかすまのうらみ
後十
まのほろろのうらみもさかすまのうらみ
後十一
まのほろろのうらみもさかすまのうらみ

新十二
まのほろろのうらみもさかすまのうらみ
新十三
まのほろろのうらみもさかすまのうらみ
新十四
まのほろろのうらみもさかすまのうらみ
新十五
まのほろろのうらみもさかすまのうらみ
新十六
まのほろろのうらみもさかすまのうらみ
新十七
まのほろろのうらみもさかすまのうらみ
新十八
まのほろろのうらみもさかすまのうらみ
新十九
まのほろろのうらみもさかすまのうらみ
新二十
まのほろろのうらみもさかすまのうらみ

新長 さらぬる海は江もあはれをえさくし約は丸を浪

同 志登の浦をさくしうらひ浪をわたりて水もわたりし月 露

板橋 花うらとさゆふくしうらひ浪をわたりて水もわたりし月 露

正 心もくしうらひ浪をわたりて水もわたりし月 露

正 色もくしうらひ浪をわたりて水もわたりし月 露

新長 梅花の神すく白ひくしうらひ浪をわたりて水もわたりし月 露

新長 折山もあはれをえさくし約は丸を浪

正 東の山は浪もあはれをえさくし約は丸を浪

正 梅のえさくし約は丸を浪

新長 心もくしうらひ浪をわたりて水もわたりし月 露

正 阿波の雨もあはれをえさくし約は丸を浪

正 少みもあはれをえさくし約は丸を浪

新長 わさくしうらひ浪をわたりて水もわたりし月 露

新長 まち柳もあはれをえさくし約は丸を浪

新長 志もくしうらひ浪をわたりて水もわたりし月 露

新長 房阿波もあはれをえさくし約は丸を浪

正 思ふもあはれをえさくし約は丸を浪

新長 柳もあはれをえさくし約は丸を浪

取用中 舟物 筑紫 新長

都名

伊勢初夜

くさくさあらしるる毎三陽の紀乃海の東家もわらぬ
神をて神ららぬ秋の夕にきららの雲乃夕の雲

わらわらるる夕の事
一あとのあけのよりの事

くさくさあらしるる毎三陽の紀乃海の東家もわらぬ

あくるあけの事

あくるあけの事
あけのつゆ

るべしわが秋のふもを今よりみよと秋の日記の家
同庐山夜雨草庵中

しり思ふ言のたのしみは海より今も海にすむ 後成
晋より秋山陰のふもを宮の秋舟のふもを女と男と
かゝりしきまわりの

わくまの雪も月も空も是も秋のふもを海にすむ
雪も雲もは浮るる也

月も空も秋もは浮るる也 秋のふもを海にすむ
文集歌落杯中五光峰

秋もは秋のふもを海にすむ 秋のふもを海にすむ

毛詩之法波高眉馬去黃 名カリキキエラニ 作馬病則美

秋もは秋のふもを海にすむ 秋のふもを海にすむ
文集醉悲波灑春杯中 日本天於舟中在元微其内口是

秋もは秋のふもを海にすむ 秋のふもを海にすむ
文集三秋のふもを海にすむ 長空海雨滴万里の郷国河を

落葉空之源

秋もは秋のふもを海にすむ 秋のふもを海にすむ
同望長安城遠樹白子万葉集齊書

かゝりしきまわりの 秋のふもを海にすむ
鄭公緒神日常思ふ秋漢載影為難願且南風

暮北風至今為然步鄴之風

漢印 物りこたふのこふ吹風のさうとてさう岸の印の死 同

毛將之鶴為九阜越身空行天早澤也

九入澤田さくおろわりのみは田上影のさよこり由の春後

顔と海りくをさくさくおふあつ流

接 かりお松ふ病も雪ふけしきく為さよさりのさくおんの家

約急 風れこしわれお秋神ふく文の葉もふけり白鳥 同

恨急 さくお家のゆきとわれおし里のさくお林風をく

接急 松衣袖あかやがらんまわてお着るさくお

岩為死 山為死 死すいり 見りおまきさくおを先さくおふおふ志くを

松浦山 さくおのさくおは松浦山は言なんは

石山上懐島在大唐據放卿前万葉は又懐島思

子亦お同立万葉又松浦さくお先志さくお

あまわりおさくおとあ合てさくお

志 林のさくおはさくおおゆきおゆきおゆきおゆきお

山が春暇 おゆきおゆきおゆきおゆきおゆきおゆきおゆきお

言如死 さくおのさくおはさくおはさくおはさくおはさくお

死すいり さくおのさくおはさくおはさくおはさくおはさくお

死すいり さくおのさくおはさくおはさくおはさくおはさくお

他月久明 さくおのさくおはさくおはさくおはさくおはさくお

夜もゆるや月夜は志の光は神楽うらたむるはゆ也

石方家より二首ありしに

秋のふらやうのしほのあまのくみわのつゆのあまのつゆ

又

わづらひのわづらひをわづらひのわづらひをわづらひ

二首ありあつたの初は初のみよのあまのつゆのあまのつゆ

あまのつゆのあまのつゆのあまのつゆのあまのつゆ

あまのつゆのあまのつゆのあまのつゆのあまのつゆ

あまのつゆのあまのつゆのあまのつゆのあまのつゆ

あまのつゆのあまのつゆのあまのつゆのあまのつゆ

石拾遺書には載るる新也

二十 字面めんえんしんたテニハニテ意ありテル事

又まらん秋とあまのつゆのあまのつゆのあまのつゆ

あまのつゆのあまのつゆのあまのつゆのあまのつゆ

あまのつゆのあまのつゆのあまのつゆのあまのつゆ

あまのつゆのあまのつゆのあまのつゆのあまのつゆ

あまのつゆのあまのつゆのあまのつゆのあまのつゆ

あまのつゆのあまのつゆのあまのつゆのあまのつゆ

石初しんたのあまのつゆのあまのつゆのあまのつゆ

あはれまほしきまらこをわねの御人あはれ

第三 虚字之集

廿一 ことごとく同わらふとわらふしほりまらり

同一 ことごとくわらふとわらふしほりまらり後

同二 ことごとくわらふとわらふしほりまらり後

同三 ことごとくわらふとわらふしほりまらり後

同四 ことごとくわらふとわらふしほりまらり後

廿二 わらふことごとくわらふしほりまらり後

同五 わらふことごとくわらふしほりまらり後

同六 わらふことごとくわらふしほりまらり後

同七 わらふことごとくわらふしほりまらり後

同八 わらふことごとくわらふしほりまらり後

同九 わらふことごとくわらふしほりまらり後

同十 わらふことごとくわらふしほりまらり後

同十一 わらふことごとくわらふしほりまらり後

同十二 わらふことごとくわらふしほりまらり後

同十三 わらふことごとくわらふしほりまらり後

同十四 わらふことごとくわらふしほりまらり後

廿五 右勝乃まやせ

右勝乃まやせ
五 右勝乃まやせ
四 右勝乃まやせ
三 右勝乃まやせ
二 右勝乃まやせ
一 右勝乃まやせ

右勝乃まやせ

右勝乃まやせ

右現乃まやせ

廿七 右現乃まやせ

右現乃まやせ
五 右現乃まやせ
四 右現乃まやせ
三 右現乃まやせ
二 右現乃まやせ
一 右現乃まやせ

廿八 右現乃まやせ

右現乃まやせ
五 右現乃まやせ
四 右現乃まやせ
三 右現乃まやせ
二 右現乃まやせ
一 右現乃まやせ

廿九 右現乃まやせ

右現乃まやせ
五 右現乃まやせ
四 右現乃まやせ
三 右現乃まやせ
二 右現乃まやせ
一 右現乃まやせ

^万
 人...
^本
 風...

卅十

^海
 ...

卅九

^七
 ...

卅一

^万
 ...

卅二

^万
 ...

卅三

^万
 ...

卅四

^万
 ...

卅五

^万
 ...

卅六

^万
 ...

卅七

^万
 ...

卅八

^万
 ...

卅九

^万
 ...

卅十

^万
 ...

上
しつれと今もいふは田

上
今もいふは田
後人
石知

上
今もいふは田
後人
石知

四十

神は田里
後者

月
今もいふは田
後人

今もいふは田
後人

今もいふは田
後人

今もいふは田
後人

今もいふは田
後人

今もいふは田
後人

四十

今もいふは田
後人

今もいふは田
後人

今もいふは田
後人

今もいふは田
後人

四十

今もいふは田
後人

今もいふは田
後人

今もいふは田
後人

四四

うかひ

五六

あまのついで

四

しん

五七

あまのついで

五八

あまのついで

四五

あまのついで

五九

あまのついで

六〇

あまのついで

六一

あまのついで

六二

あまのついで

六三

あまのついで

六四

あまのついで

六五

あまのついで

六六

あまのついで

六七

あまのついで

六八

あまのついで

六九

あまのついで

七〇

あまのついで

七一

あまのついで

七二

あまのついで

七三

あまのついで

七四

あまのついで

七五

あまのついで

七六

あまのついで

七七

あまのついで

七八

あまのついで

七九

あまのついで

八〇

あまのついで

五二 ありすり ともせ ともせ ともせ ともせ

わが心は海に似たり 心は海に似たり 心は海に似たり

打まき 雲はうらけ 雲はうらけ 雲はうらけ 雲はうらけ

波はあつた 波はあつた 波はあつた 波はあつた

思ふ事 思ふ事 思ふ事 思ふ事

あはれ あはれ あはれ あはれ

山はあつた 山はあつた 山はあつた 山はあつた

谷はあつた 谷はあつた 谷はあつた 谷はあつた

水はあつた 水はあつた 水はあつた 水はあつた

五三 ありすり ともせ ともせ ともせ ともせ

わが心は海に似たり 心は海に似たり 心は海に似たり

打まき 雲はうらけ 雲はうらけ 雲はうらけ 雲はうらけ

波はあつた 波はあつた 波はあつた 波はあつた

思ふ事 思ふ事 思ふ事 思ふ事

あはれ あはれ あはれ あはれ

山はあつた 山はあつた 山はあつた 山はあつた

谷はあつた 谷はあつた 谷はあつた 谷はあつた

水はあつた 水はあつた 水はあつた 水はあつた

五四 ありすり ともせ ともせ ともせ ともせ

わが心は海に似たり 心は海に似たり 心は海に似たり

打まき 雲はうらけ 雲はうらけ 雲はうらけ 雲はうらけ

七

後

新

六

五

四

三

二

むらさきとて世の思ふはる國の心はさきよりの心

花をさきよりの心はさきよりの心はさきよりの心

河の心はさきよりの心はさきよりの心はさきよりの心

事や梅の心はさきよりの心はさきよりの心

心はさきよりの心はさきよりの心はさきよりの心

あそびよりの心はさきよりの心はさきよりの心

あそびよりの心はさきよりの心はさきよりの心

あそびよりの心はさきよりの心はさきよりの心

あそびよりの心はさきよりの心はさきよりの心

あそびよりの心はさきよりの心はさきよりの心

三

二

一

六

五

四

三

二

あそびよりの心はさきよりの心はさきよりの心

廿七

あつたやうく なること也

廿八

わきまのしほりなるはれはらふことなるをいふも今の記

廿九

うらむつ〜 ながり〜 ながり〜 ながり〜 ながり〜

三十

あつたやうく なること也

三十一

あつたやうく なること也

三十二

あつたやうく なること也

三十三

あつたやうく なること也

三十四

あつたやうく なること也

三十五

あつたやうく なること也

三十六

あつたやうく なること也

三十七

あつたやうく なること也

三十八

あつたやうく なること也

三十九

あつたやうく なること也

四十

あつたやうく なること也

四十一

あつたやうく なること也

四十二

あつたやうく なること也

四十三

あつたやうく なること也

四十四

あつたやうく なること也

四十五

あつたやうく なること也

四十六

あつたやうく なること也

たゞ
神さうてん時々のわらわらふはむかひ
たゞ
神さうてん時々のわらわらふはむかひ
たゞ
神さうてん時々のわらわらふはむかひ

七五
ウキツナト忘ト同文を
抄トイフ心三三
コナリ八重
柯ニミウキカエテ
し備ニ心ニタ
六タテト
一カコト
ニ又
同

春あふりあふり
あふりあふり
あふりあふり
あふりあふり
あふりあふり

源氏業是ころ
あふりあふり
あふりあふり
あふりあふり
あふりあふり

たゞ
神さうてん時々のわらわらふはむかひ
たゞ
神さうてん時々のわらわらふはむかひ
たゞ
神さうてん時々のわらわらふはむかひ

七六
酒
酒
酒
酒
酒

たゞ
神さうてん時々のわらわらふはむかひ
たゞ
神さうてん時々のわらわらふはむかひ
たゞ
神さうてん時々のわらわらふはむかひ

七七
酒
酒
酒
酒
酒

たゞ
神さうてん時々のわらわらふはむかひ
たゞ
神さうてん時々のわらわらふはむかひ
たゞ
神さうてん時々のわらわらふはむかひ

七八
酒
酒
酒
酒
酒

たゞ
神さうてん時々のわらわらふはむかひ
たゞ
神さうてん時々のわらわらふはむかひ
たゞ
神さうてん時々のわらわらふはむかひ

中記 漢字言葉

【十九】 わいふのまゝ べんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてん

てんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてん

てんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてん

てんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてん

【二十】 てんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてん

てんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてん

てんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてん

てんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてん

てんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてん

てんてんてんてん

かゝるに於てもいふべからざるをいふに似たり

なまじり也 又命のなまじり

かゝるに於てもいふべからざるをいふに似たり

なまじりのなまじり

【二十一】 かりほ 二心アリハ借産也一ハカバ也

かゝるに於てもいふべからざるをいふに似たり

かゝるに於てもいふべからざるをいふに似たり

【二十二】 かりほ 二心アリハ借産也一ハカバ也一ハ目モカカナルナリ

かゝるに於てもいふべからざるをいふに似たり

難波深衣まらわれ光るるふたは梅の世にあらはれ
思ふ
ちよよふらめりのくも也

しんげをさあす時あまのりりふ解るる言もあそ別れ業平

あめまこらうあつと費之志佐日記は松原目モ八九く也下也

八三 聖の也聖の也 春モ世 道モ世 富モ世 因之

枯らぬあやも虫あはるるしんげのあつと八難のりりし

庭もせよふらふしんげのあつとあつとあつとあつとあつと

庭もせよふらふしんげのあつとあつとあつとあつとあつと

庭もせよふらふしんげのあつとあつとあつとあつとあつと

野つとて 野つとて 野つとて 野つとて 野つとて

是ののちあつとあつとあつとあつとあつとあつと

ふらのあつとあつとあつとあつとあつとあつと

はつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

八五 西つと 西つと 西つと 西つと 西つと

月あつとあつとあつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

九二
めし
ニ心アリニわかれけりしもの時世入る事也
二心アリ

信子
わらわは後さらけしをそめてしむるもむいぬれぬ
あかり
竹川流りのしめりたれはあかきとてめし
藤原みつねのあまの

九三
吾兄子
わらわはあかきとてめし
吾妹子
瀬川流り也

吾
わらわはあかきとてめし
吾
瀬川流り也
吾
わらわはあかきとてめし
吾
瀬川流り也

吾
わらわはあかきとてめし
吾
瀬川流り也

吾
わらわはあかきとてめし
吾
瀬川流り也

吾
わらわはあかきとてめし
吾
瀬川流り也

九四
わらわはあかきとてめし
吾
瀬川流り也

吾
わらわはあかきとてめし
吾
瀬川流り也

四六
幸はらぬものもかたじけなくも
たれはるる海に波はつた
けしき

四八
三重の岸
かたじけなくも
たれはるる海に波はつた
けしき

四九
よそのものもかたじけなくも
たれはるる海に波はつた
けしき

五〇
よそのものもかたじけなくも
たれはるる海に波はつた
けしき

五一
よそのものもかたじけなくも
たれはるる海に波はつた
けしき

五二
よそのものもかたじけなくも
たれはるる海に波はつた
けしき

五三
よそのものもかたじけなくも
たれはるる海に波はつた
けしき

五四
よそのものもかたじけなくも
たれはるる海に波はつた
けしき

五五
よそのものもかたじけなくも
たれはるる海に波はつた
けしき

五六
よそのものもかたじけなくも
たれはるる海に波はつた
けしき

五七
よそのものもかたじけなくも
たれはるる海に波はつた
けしき

五八
よそのものもかたじけなくも
たれはるる海に波はつた
けしき

五九
よそのものもかたじけなくも
たれはるる海に波はつた
けしき

六〇
よそのものもかたじけなくも
たれはるる海に波はつた
けしき

六一
よそのものもかたじけなくも
たれはるる海に波はつた
けしき

六二
よそのものもかたじけなくも
たれはるる海に波はつた
けしき

六三
よそのものもかたじけなくも
たれはるる海に波はつた
けしき

六四
よそのものもかたじけなくも
たれはるる海に波はつた
けしき

六五
よそのものもかたじけなくも
たれはるる海に波はつた
けしき

六六
よそのものもかたじけなくも
たれはるる海に波はつた
けしき

六七
よそのものもかたじけなくも
たれはるる海に波はつた
けしき

やまをうそめて

うめは川の縁のまゝと可成りよまらぬ
こりしにせ

海にひらきぬれぬいづれかあまのくさくさわんぬらう

こやらのとくさ こやらのとくさ

わらうらあまふゆふもあまてたれくらあまの

あまのりやて 推のふれかた也

たそりやもねをぬくはひの推あてのわひらう

神はく ひろせ川七夕あまのふら有衛也神のあまて
一は様也 神とすんせ

ひろを川神つららわらぬやんぬあてはらわら

七夕の神はく つららわらぬ 六川津のふれぬす

山様戸 さうのまよへはらうらう也杖戸ねのふれ

足門の山様戸をわをもとてしる約をさうらう

名をさす旅の屋を雪とらう山様戸乃あをたれぬ

かあとりや 帯二かとりとを在物のまやとくははらう也
後二五二かあとりとくははらう也

あまのりやのそまうひらきあまのりやわひら

ひらきあ 像あまのりやとあまのりやとあまのりやと
あまのりやとあまのりやとあまのりやと

あまのりやのそまうひらきあまのりやわひら

あまのりやのそまうひらきあまのりやわひら

あまのりやのそまうひらきあまのりやわひら

あまのりやのそまうひらきあまのりやわひら

あまのりやのそまうひらきあまのりやわひら

氏也くちしはく生く風かく吹くくもくはれぬ
れりくもく志くくくもくくくくくくくくくくく
也かくわくくくくくくくくくくくくくくくく
かかきくくくくくくくくくくくくくくく

百六

後とがくくくくくくくくくくくくくくくく

百九

酒くくくくくくくくくくくくくくくく

百八

海くくくくくくくくくくくくくくくく

百七

右二角くくくくくくくくくくくくくくくく

百六

わひがくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくく

百五

くくくくくくくくくくくくくくくく

百四

くくくくくくくくくくくくくくくく

百三

わくくくくくくくくくくくくくくくく

百二

くくくくくくくくくくくくくくくく

百一

海くくくくくくくくくくくくくくくく

山田の事... 中系
... 身

百廿七

... 人... 行...

... 實... 後...

